

## 大学名：玉川大学教育学部

ASPUnivNet の 4つの機能他	評価項目	事例記述
1. 学校のユネスコスクール加盟を支援します (加盟に関する相談も含む)	① ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	東京都、神奈川県、千葉県相当数の学校および青山学院大学からユネスコスクール加盟支援についての相談を受けた。加盟手続きや加盟のメリット、加盟に向けての留意点等について情報提供し、学校としてユネスコスクール加盟への準備体制を整えられるように支援的に関わった。
	② ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	チャレンジ期間実施校との接触は頻りに持ち、教員研修を行った。カリキュラム、学習活動および校内体制についてもできるだけ丁寧に相談に応じるように心がけた。ASPnet 加盟申請手続きについてチャレンジ校に理解して頂き、加盟への意欲を維持して頂けるように工夫した。
	③ 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	担当地域のユネスコスクール加盟校には教員研修会や出張講義をこまめに行った。ESD/SDGs を中心とした学習活動のあり方や校内体制についての定期レビューを行い、ユネスコスクールに求められる「教育の質」や役割について教職員との協議や説明会を積極的に実施した。
2. 大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します	① 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	八千代市の小中学校、練馬区立中村中学校、稲城市教育委員会、東京都立山崎高等学校をはじめとして担当地域のユネスコスクールに対して、学校側からの求めに応じて、ESD 教員研修会や SDGs 入門講座などをいくつか開催した。玉川大学のもつ教育・研究資源を学校現場に効果的に活用して頂けるよう心がけ、一定の成果を上げることができた。
	② 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	第1回～第4回の成果をふまえ、2024年10月5日に玉川大学にて「第5回ユネスコスクール関東ブロック大会」を主催校として企画・運営する作業を進めている。また、東京都立山崎高等学校、大妻中野中学校・高等学校との共同で、若者の行動変容を目的とした高大連携の SDGs ワークショップの実施を計画している。
	③ 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	町田市・相模原市の学校との協働で、SDGs や ESD, GCED, 「平和と非暴力の文化」、世界遺産学習を含む「ユネスコ検定」の開発を進めている。教材としての活用とともに、ユネスコスクールとユネスコ協会との連携強化の資源としての活用も視野に入れている。
3. 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します	① 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	町田市教育委員会、町田青年会議所および東京都立山崎高等学校と連絡を取り、ユネスコスクールについての地域社会の理解と支援を得られるように試みた。また東京都ユネスコ連絡協議会の研修会および青年学生研修会にてユネスコスクールについての実践報告と広報を行った。

	<p>② ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。</p>	<p>東京都ユネスコ連絡協議会主催「関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 東京」(2023年9月3日)にて青年活動研究会を企画した。また、次世代ユネスコ国内委員会とも連携しながら若者のユネスコへの関心と関与を高めるため、地域の多様なステークホルダーと連携したコース会合および「ユネスコクラブ全国サミット」の企画運営を行った。</p>
	<p>③ ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。</p>	<p>多摩市教育委員会とはユネスコスクールに関する基本協定を結び、教員研修を含む多角的な地域連携を進めている。また稲城市教育委員会からの求めに応じて ESD/SDGs をテーマにした教員研修会を行い、多摩地区におけるユネスコスクール活動のいっそうの活性化と地域連携の強化に向けた取り組みを積極的に進めている。</p>
<p>4. 国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します</p>	<p>① 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた</p>	<p>日本国際理解教育学会の企画する公開講座「ユネスコカフェ」にてユネスコ関係者との交流を行い、ユネスコスクールの国際動向や国内外の諸課題について情報共有を図った。ベルリン・ユネスコスクール国際会議(2023年6月)などの国際会議にて ASPUnivNet や次世代ユネスコ国内委員会の取り組みを世界のユネスコスクール関係者に紹介した。</p>
	<p>② 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。</p>	<p>ユネスコ・バンコク事務所のアジア太平洋地域 GCED ネットワークの一員として、また APCEIU 主催の「北東アジアにおける平和教育共通カリキュラム開発プロジェクト」への参加を通じて、アジア太平洋地域のユネスコスクールと交流と協働を展開することができた。</p>
	<p>③ ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)</p>	<p>ユネスコ本部の実施する「グローバル ASPnet ウェビナー会議」等を通じて海外のユネスコスクールとの交流を行っている。デンマークの VIA University とのオンライン国際協働学習も進めている。またユネスコ本部、ユネスコ・バンコク事務所、APCEIU 等が主催するさまざまな国際協働プログラムに参加協力している。今後に向け定期的な交流や協働ができるよう海外連携ネットワーク作りの作業を進めてゆきたい。</p>
<p>5. 大学内の活動</p>	<p>① 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。</p>	<p>教育学部のカリキュラムポリシーに「ESD/SDGs 学習の推進」が明記されたことを受け、教育学部内にユネスコスクール推進チームが結成され、「第5回ユネスコスクール関東ブロック大会」の企画運営にも当たっている。また学部改革に向け、ESD/SDGs 学習の推進に焦点を当てた教師教育プログラムの開発を進めている。とくに総合学習における授業モデルの構築を積極的に進めている。</p>

	② 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	現在、教育学部のゼミでユネスコスクールに関わる変容的教育の学習活動を行っている。また、「総合的な学習の時間の理論と方法」および「世界の教育と文化環境」などの教職科目において ESD/SDGs 教育の指導力育成に焦点づけした内容が導入され、ユネスコスクール加盟大学としてのカリキュラム構築が進められている。
	③ 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	ASPUnivNet 共同研究プロジェクトとして「ユネスコスクールにおける教職員の動機付けを高める要因に関する研究」を提唱し、福山市立大学、信州大学との協同により学校での聞き取り調査を進めた。ユネスコスクールにおける教育の質を高め、ユネスコスクールを活気づけていくための重要な心理社会的データが得られており、共同研究の成果を研究論文の形でまとめて広く情報発信してゆく予定である。
	④ その他	マレーシア・トゥアラン初等学校との国際交流授業（2024年5月）を玉川学園初等中等部との連携で行ったことなどを通じて大学の枠を超えて全学的にユネスコスクールへの関心を高めることができつつあり、全学的なユネスコスクール加盟も視野に入れて検討を進めている。
6. ASPUnivNet のネットワーク機能の活用	① 加盟大学間で情報共有ができた。	関東地方にある ASPUnivNet 加盟大学との連携によるユネスコスクール関東ブロック大会を毎年開催してきたことにより、イベントだけでなくユネスコスクール支援活動全般にわたる情報共有が促進されるようになった。この成果を生かして、日常的な教育研究活動を含んだ形での加盟大学間の連携をいっそう積極的に進めてゆきたい。
	② 加盟大学間で連携した取組ができた。	地域の学校のユネスコスクール加盟促進、加盟支援に関して、担当県の枠組みを超えて加盟大学間で協力、連携が図られるようになってきた。ASPUnivNet の「関東ブロック」として一体化して動いて行けるような仕組みを今後に向けて開発してゆけないか検討している。
	③ その他	ユネスコスクールと民間ユネスコ運動（ユネスコ協会、ユネスコクラブ）との連携強化に向けて ASPUnivNet が果たし得る役割はまだ多く残されていると思われる。若者（学生、青年）を対象としたネットワークを活かした共同プロジェクトの開発をはじめ、ASPUnivNet 加盟大学としてできることをより積極的に開発・実施し、また提言してゆきたい。

#### 自由記述

日本のユネスコスクールと世界全体の ASPnet ネットワークをもっと密接につなぎ、距離を縮めていく活動を行ってゆきたいと考えている。とくに次世代育成を活性化させるために、ユネスコ本部とも連携しながら、ASPUnivNet が先導して SDGs 促進のためのフラッグシップ的な国際協同プロジェクトを創設することを提案したい。また次世代ユネスコ国内委員会および日本ユネスコ協会連盟とも連携しながら、大学ユネスコクラブのネットワーク構築をはじめとする若者エンパワメントを活性化するための具体的なアクションをより積極的に実施してゆきたいと考えている。